

# 北海道浮魚ニュース

令和5（2023）年度4号

2023年5月30日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

【URL】 [http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo\\_news.html](http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html)

## ◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5月19日～25日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、2連式イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年並みで過去5年平均を下回った。
- ・ 体サイズは昨年および過去5年平均と比べ大きかった。

### 1. 水温分布（図1）

漁獲調査4地点の表面水温は14.0～15.5℃（昨年は12.9～16.2℃）、深度50mの水温は9.6～11.8℃（昨年は4.9～11.9℃）の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度50mで10℃以上の水温帯は、沖合の調査点St.6付近を除く調査海域のほぼ全域に広く分布しており、例年以上に高めの水温に覆われていました。

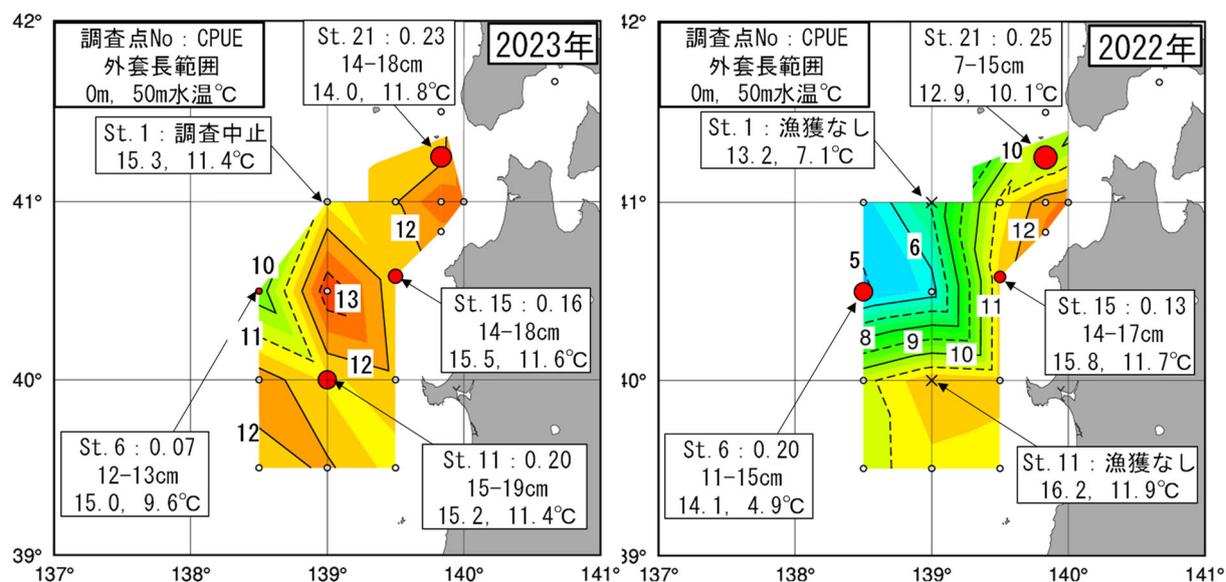


図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図（左：2023年、右：2022年）  
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例、×は漁獲なし  
○は海洋観測のみの調査点

## 2. 流向流速分布 (図 2)

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。対馬暖流は秋田県沖を北上し、津軽海峡方向および北方へ枝分かれして流れていました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

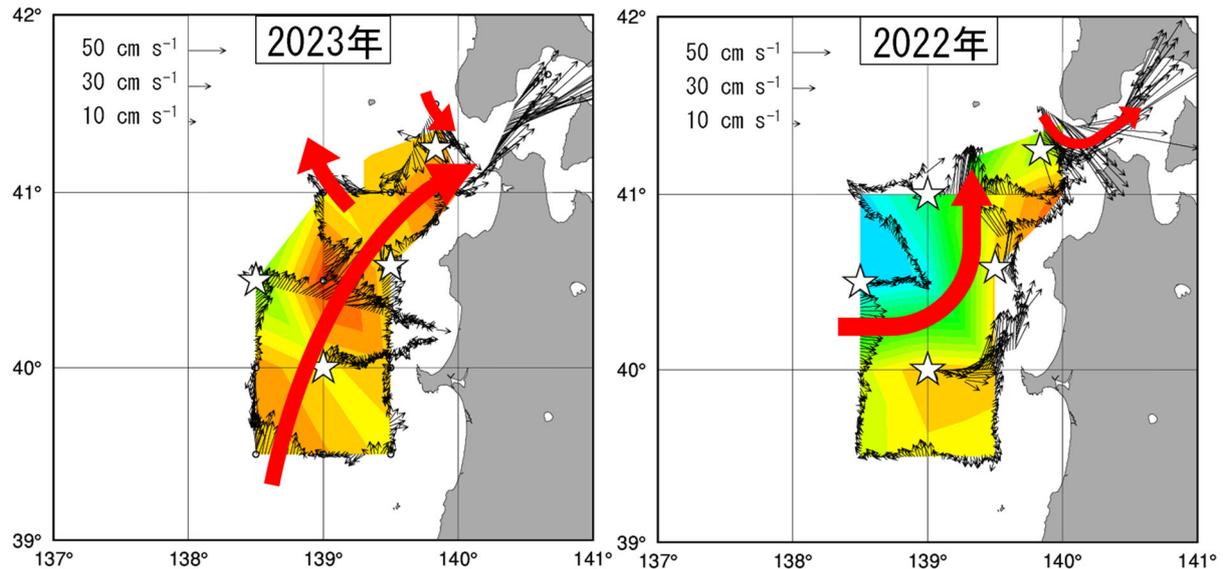


図 2 2023 年 (左) と 2022 年 (右) の深度 50m の流向流速と水温分布図  
赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点。

## 3. スルメイカ分布密度 (図 1、図 3)

今回の調査では、1 地点 (St. 1) で漁獲調査を実施できませんでしたが、残り 4 地点で漁獲調査を実施しました。4 地点の CPUE (イカ釣機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数) は 0.07~0.23 (昨年 0~0.25) の範囲にありました。CPUE が最も高かったのは松前小島近辺の St. 21 で CPUE は 0.23 (昨年も St. 21 で最も高く CPUE は 0.25) でした。残り 3 地点でも漁獲はありましたが CPUE は低い値 (0.07~0.20) でした。

漁獲調査を行った 4 地点の平均 CPUE は 0.16 で、昨年の 5 地点の平均 (0.12) と同程度でしたが、過去 5 年の平均 (3.4) を大きく下回り、2001 年以降で 4 番目に低い値でした。

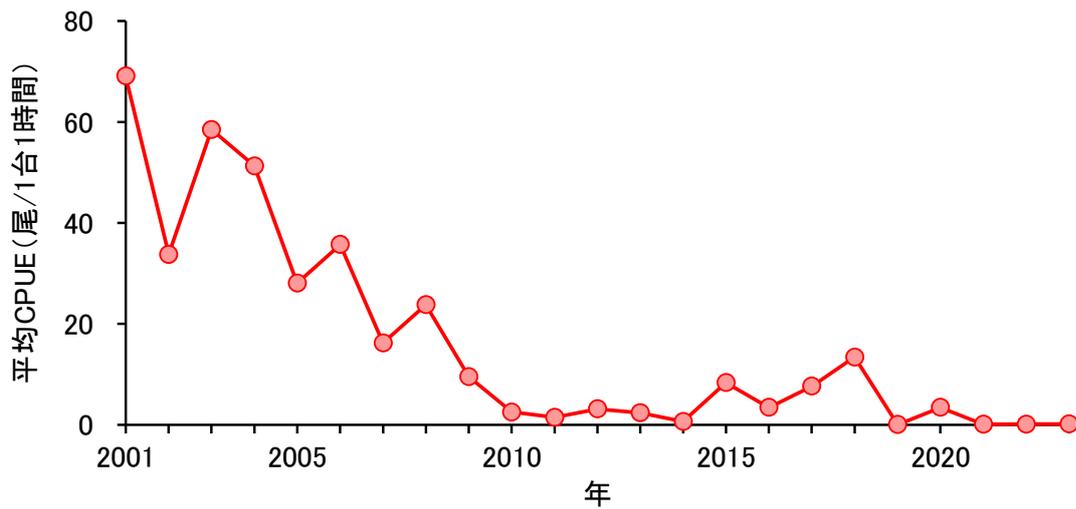


図3 漁獲調査を実施した各地点の平均 CPUE の経年変化

#### 4. スルメイカの大きさ (図4)

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は12~19cm (昨年7~17cm) で、ピークは15cmと17cmにあり、昨年および過去5年平均と比べ大型個体の割合が高くなっていました。

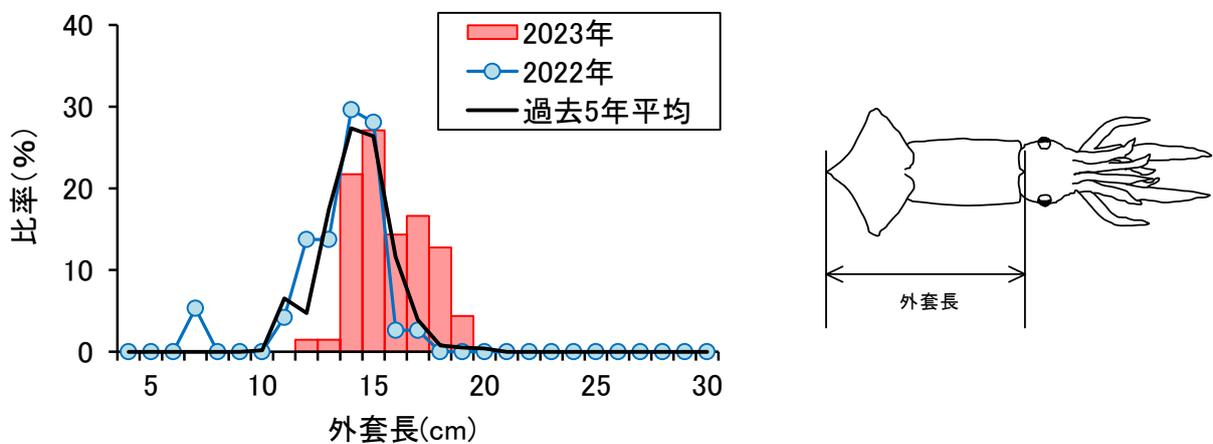


図4 調査海域全体の外套長組成

※本調査の一部は水産資源調査・評価等推進委託事業により実施しました。

(函館水産試験場 調査研究部、TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)